

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：人間と社会

部会長名：藤井 勝

作成者名：藤井 勝

概要（2000 字）

「人間と社会」部会は、社会科学分野を中心として構成される学域横断的な部会であり、多岐にわたる授業科目を展開している。主な分野は社会学、文化人類学、地理学、社会思想史、教育学、環境学、社会経済学等の広範な専門領域に及んでいる。本部会の提供する授業の履修を通じて、学生は、人間と社会の関係について多角的に認識を深めることが期待されている。今年度は、部会構成員数 32 名中実質的に授業を担当したのは 16 名だが、それぞれに創意工夫に富んだ教育環境を創造している。学生からのフィードバックも全体として高評価なので、教育目的を十分に達成していると考えられる。

以下、評価項目について概観していく。

(1) 授業内容が基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか：

各授業科目は主要な教養的教育を目的とするものであるが、各教員は基礎的な研究成果を十分に反映させつつ、同時に新しい研究の成果や方向性も積極的に取り入れながら、低学年次の、多様な学部からの受講生に理解しやすように工夫しながら授業を実施している。平易な中にも質の高い内容を提供することが強く意識されている。

(2) 単位の実質化への配慮：

シラバスの充実、そしてそのシラバスに沿った授業の実施がなされている。その上で、小レポートや小テストを実施したり、各回に授業のコメント・ペーパーを学生から回収するなどして、受講生の授業への積極的参加を促したり、理解度・習熟度をチェックしたりする工夫がなされている。さらに予習・復習の奨励や多様な評価体制の導入なども留意されていることにより、単位の実質化は全体として達成されている。

(3) 教育の目的に照らしての授業形態の組合せ・バランス及びそれぞれの教育内容に対する適切な学習指導法の工夫：

各授業科目では、プリント配布やパワーポイントの使用にとどまらず、DVD、ビデオ、OHP、OHC 等の視覚教材や音楽等の音響教材を活用している。また活用できる Web サイトを積極的に紹介するなど、現代の情報化や IT 化に十分に対応した学習指導法の実施の工夫がなされている。さらに本部会の提供する授業科目では大多数が大規模授業となっているため、コメント・ペーパーを回収するなどして相互対話性を深める努力がなされている。TA の積極的な活用も図られている。

(4) 成績評価基準に従った成績評価、単位認定：

各授業科目ではシラバスに成績評価基準を明記し、その成績評価基準に応じて成績を総合的に判断している。定期試験、小テスト、レポート、その他学期末課題等で厳格に成績評価、単位認定がなされている。また今年度から「秀」ランクの設定や、素点入力を実施されているが、これらにも十分に対応する成績評価等がなされている。

(5) 授業評価等から判断しての教育の成果や効果：

各担当教員による丁寧で詳細なアプローチによって、全体として学生の授業評価は高ポイントを獲得している。学生の授業評価で総合評価が 4 を超える授業科目、学生より積極的なリアクションを得ている授業科目も少なくない。したがって教育の成果や効果は相応に上がっていると言える。

以上、本各授業科目では授業科目ごとに具体的な教育努力がなされ、多様な教材の適切な運用も行われていることから、教育の目的を十分に達成している。もちろん今後も引き続き、全学共通教育の意義を学生に理解させるべく努力と工夫を重ねる。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) はい。神戸大学における全学共通授業科目の位置づけや方針に対応した授業がなされると共に、全学共通授業科目における「人間と社会」部会の役割をふまえた授業が、各教員のさまざまな工夫のもとでなされている。また低学年次で、かつ多様な学部にも所属する学生に理解できるように、平易に、かつポイントを押さえた内容を提供することにより、教養教育の充実に供する質を提供できている。

根拠資料: シラバス、教科書、Web 資料、配布プリント、パワーポイント (スライド) など。

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) はい。新しい研究の成果と共に、その専門分野の基礎となる研究成果をしっかりと押さえた授業内容を提供する工夫がなされている。

根拠資料: シラバス、教科書、Web 資料、配布プリント、パワーポイント (スライド)、音声・映像資料 (テープ、OHP シート、OHC 等) など。

5-1-⑤: 単位の实质化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) はい。シラバスの充実、そしてそのシラバスに沿った授業の実施がなされている。その上で定期試験、学期末課題、小レポートや小テスト、コメント・ペーパーなどによって、受講生の積極的授業参加を促すともに、理解度・習熟度をチェックする工夫が行われている。加えて予習・復習の奨励や多様な評価体制の導入もなされている。

根拠資料: シラバス、定期試験解答用紙、期末課題、小レポート、小テスト解答用紙、コメント・ペーパー (あるいはリアクション・ペーパー) など。

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況) はい。本部会の提供する授業科目は大多数が大規模の講義形態をとる。そのなかで授業を効果的に行うために、各授業科目ではプリント配布やパワーポイントの提供、そして DVD、ビデオ、OHP、OHC 等の視覚教材や音楽等の音響教材を活用し、Web サイトを積極的に紹介するなどしている。またコメント・ペーパーを回収するなどの相互対話性を深める工夫がなされている。

根拠資料：配布済プリント、パワーポイント（スライド）、DVD、ビデオ、OHP、OHC等の視覚教材、フィールドノート、フィールドワーク時の映像・音響資料、インタビュー・データ、コメント・ペーパー（あるいはリアクション・ペーパー）、Web資料など。

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）はい。予習・復習を奨励したり、小テストや小レポートなどにより進捗・習熟度のチェックをできるだけ定期的に行っている。また授業中に質問等を受け付けだけでなく、オフィスアワーの活用など授業時間外での質問にも応じている。大規模講義という条件のため、学生の学習状態や理解度の把握がきびしいなかでも、可能な限り相互的な環境づくりに努めている。

根拠資料：小テスト解答用紙、添削済小レポート、コメント・ペーパー（あるいはリアクション・ペーパー）など。

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）はい。シラバスに明記してある成績評価基準とその配分割合に応じて成績を総合的に判断している、出欠確認、定期試験、小テスト、レポート、その他学期末課題等で厳格に成績評価、単位認定を実施している。

根拠資料：出欠簿、定期試験解答用紙、添削済小レポート、小テスト解答用紙、その他学期末課題など。

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）はい。全体として学生の授業評価は高ポイントを獲得しており、学生より積極的なリアクションを得ている授業科目も少なくない。教育の成果や効果は相応に上がっているものと考えられる。

根拠資料：学生授業評価、コメント・ペーパー（あるいはリアクション・ペーパー）、独自のアンケート、定期試験解答用紙、小テスト解答用紙、学生からの質問など。

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）はい。授業前後における相談、さらにオフィス・アワーの活用などを図っている。またTAの活用による支援もなされている。

根拠資料 シラバス、TA採用資料など。